



THE BELLCLASSIC

Group

ベルクラシックは、つながりという奇跡を永遠に慈しむ、  
心からのホスピタリティをお約束します。



*Aya na ture*

presented by AYANA SAKAI

image

AYA0105 Off-White



*La da mode*



Bouquet de BELLA

<http://www.bellclassic.co.jp>

ベルクラシック

検索



第109回

# 同志社グリークラブ定期演奏会

2013年12月1日(日)

京都コンサートホール 大ホール

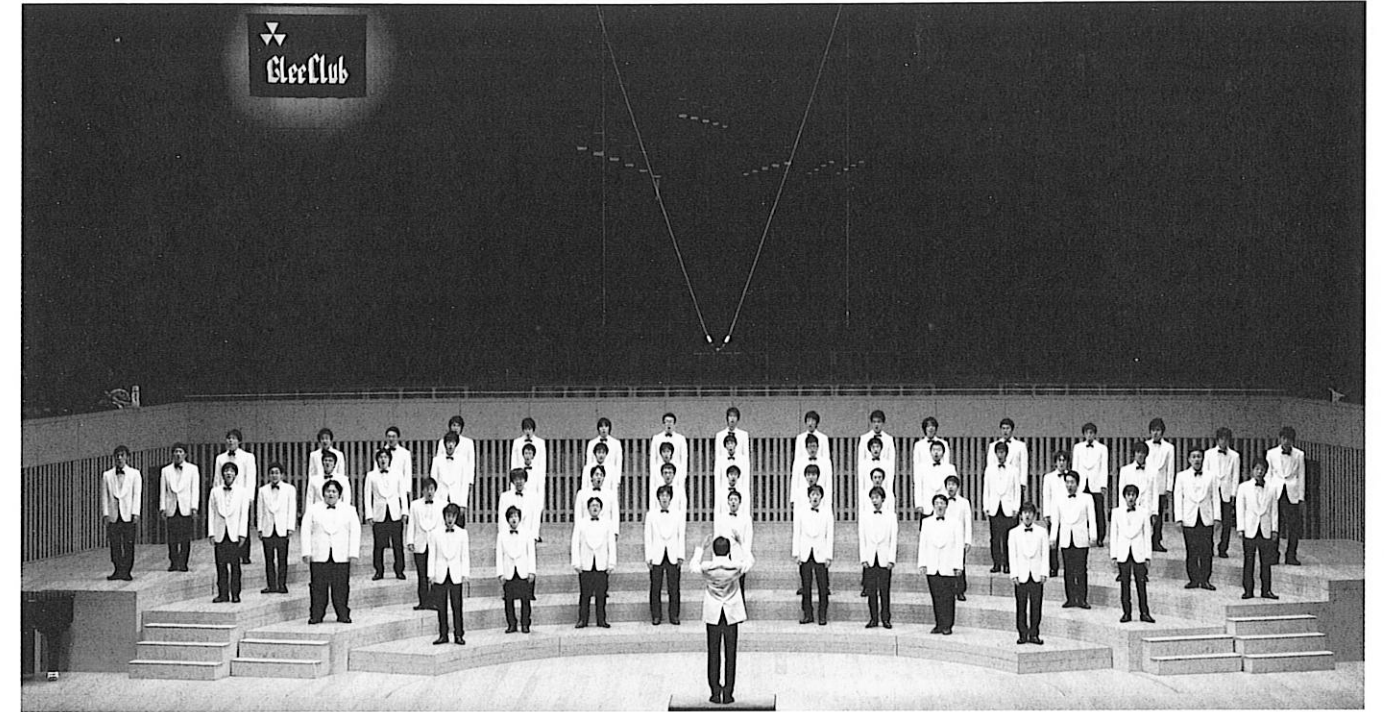


## Doshisha College Song

*One purpose, Doshisha, thy name  
 Doth signify one lofty aim;  
 To train thy sons in heart and hand  
 To live for God and Native Land.  
 Dear Alma Mater, sons of thine  
 Shall be as branches to the vine;  
 Tho' through the world we wander far and wide,  
 Still in our hearts thy precepts shall abide!*

*Still broader than our land of birth,  
 We've learned the oneness of our Earth;  
 Still higher than self-love we find  
 The love and service of mankind.  
 Dear Alma Mater, sons of thine  
 Would strive to live the life divine;  
 That we may with increasing years have stood  
 For God, for Doshisha, and Brotherhood!*

## ～ 第109回同志社グリークラブ定期演奏会 ～



### 御挨拶

同志社グリークラブ 幹事長 小淵 崇裕



本日は「第109回同志社グリークラブ定期演奏会」に御来場いただき、誠にありがとうございます。本年も昨年に引き続き京都コンサートホール大ホールにおいて、定期演奏会を開催することができました。この大舞台上で演奏ができるのも多くの方からの温かいご支援とご理解があつてのことだと思ひます。部員を代表し、厚く御礼申し上げます。

定期演奏会はその年の集大成を皆様に披露する場です。本年は、東西四大学合唱演奏会に始まり、立教大学・金城学院大学との合同演奏会、関西と全国でのコンクールと、多くの場で歌って参りました。約70名の団員たちが、「音楽」や「グリークラブの在り方」に対して様々な思いをそれぞれ見出すことができた1年であつたと思ひます。

同志社グリークラブには109年の伝統があります。しかし、一度として同じ年はありません。109年貫いた歌に対する情熱と109年目の私達にしかできない音楽がここにあります。どうぞ、最後までお楽しみください。

1st Stage

男声合唱曲『ラグビー』

■作 詩/竹中 郁  
 ■作 曲/信長 貴富  
 ■指 揮/伊東 恵司  
 ■パーカッション/森田 貴史

2nd Stage

男声合唱組曲『風に鳴る笛(2013年度版)』

■作 詩/谷川 俊太郎  
 ■作 曲/高嶋 みどり  
 ■指 揮/伊東 恵司  
 ■ピアノ/内藤 典子

1. 奏楽
2. 息
3. 地球があんまり荒れる日には
4. 道の夢
5. 未来

-INTERMISSION-

3rd Stage

男声合唱とピアノのための『くちびるに歌を』

■作 詩/Hermann Hesse ほか  
 ■作 曲/信長 貴富  
 ■指 揮/長谷川 裕也  
 ■ピアノ/松井 萌

1. 白い雲
2. わすれなぐさ
3. 秋
4. くちびるに歌を

4th Stage

アラカルトステージ『クリスマスの祈り』

1. Joy to the World!
2. Ave Maria
3. Amazing Grace
4. くしき星よ
5. Ain-'a That Good News!

-INTERMISSION-

5th Stage

男声合唱組曲『水のいのち』

■作 詩/高野 喜久雄  
 ■作 曲/高田 三郎  
 ■指 揮/浅井 敬壹  
 ■ピアノ/藤澤 篤子

1. 雨
2. 水たまり
3. 川
4. 海
5. 海よ



学校法人同志社 総長 大谷 實

第109回同志社グリークラブ定期演奏会が、京都コンサートホール大ホールにおいて盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

ご案内の通り、同志社グリークラブは、1904(明治38)年の創部以来の歴史と伝統を有し、常に精力的に合唱活動を行ってきた同志社きっての名門クラブであります。

今年度もすでに、第68回関西合唱コンクール大学ユース合唱の部で1位金賞を受賞し、第66回全日本合唱コンクールに出場するなど積極的な演奏活動を展開しているところです。さらに学内の様々な式典においても素晴らしい演奏を披露しており、今や、同志社大学にとって欠かすことのできない存在であり、その活動に総長として心から敬意を表する次第です。

本日の演奏においても、創部109年の歴史と伝統が、力強く心地よいGleeful Moodをかもし出し、ご来場の皆様に感動を与えてくれるものと確信しております。今宵の合唱が、ご来場の皆様の心に明るい希望の火を灯し、世界の平和と安寧への序曲となることを心からお祈りいたします。



同志社大学 学長 村田 晃嗣

このたび、第109回同志社グリークラブ定期演奏会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

同志社グリークラブは今年で創部109年目を迎える、長い歴史と伝統を持ったクラブです。本年度も、第68回関西合唱コンクール金賞受賞、第66回全日本合唱コンクール出場、全同志社メソッド演奏会出演など、精力的な活動を行っております。

もちろん、このような輝かしい活動の裏には、日々の地道な努力が必要不可欠です。本日は、日頃の成果を存分に発揮し、素晴らしい歌声を披露していただきたいと思っております。そして、聴衆の皆様にも夢や感動をお届けすることができれば、これに勝る喜びはございません。

最後となりましたが、お忙しい中ご来場いただきました観客の皆様をはじめ、常日頃より部員の活動を支えていただいております諸先輩ならびに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。本日の演奏会の成功と同志社グリークラブの益々の発展を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



同志社グリークラブ 顧問 岸 基史

本日は「第109回同志社グリークラブ定期演奏会」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

今年の定期演奏会は第109回目となります。しかし、第一義的には定期演奏会が何回目であるかということは重要ではありません。言うまでもなく、その時々々の現役グリーンメンがその青春をグリークラブの活動に叩き付け、その成果を精一杯に発表することに意味があるからです。このような定期演奏会の1回1回の積み重ねが、伝統を醸し出すのだと思います。

ご来場の皆様には本日の演奏を心ゆくまでお楽しみいただきたいと思っております。



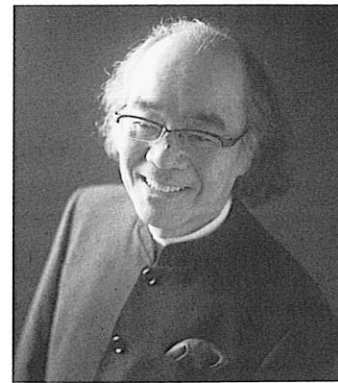
同志社グリークラブOB会 理事長 芦田 直幸

本日は師走のお忙しい中を第109回同志社グリークラブ定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

同志社グリークラブは、1904年に同志社大学の神学部生を中心に讃美歌の練習を始めたときを起源として今年で創立109年を迎えます。この間、同志社グリークラブは、良心の全身に充満した多くの卒業生(OB)を各方面に輩出して参りました。その中でも、我々が敬愛し、誇りとする浅井敬壹先輩と伊東恵司さんに現役の定期演奏会で指揮をしていただきますことはOB一同この上ない喜びであります。

そして、ようやく70人近いメンバーがそろった現役諸君が二人の大先輩の指揮にどう応えてくれるのか。大先輩に負けじと学生指揮者の長谷川裕也君がどのような頑張りを見せてくれるのか。OBとしては興味津々です。

本日は、邦人作品の名曲を取り揃えた男声合唱のフルコースメニューをごゆっくりご堪能いただければ幸いです。



◇客演指揮者 浅井 敬壹

同志社大学在学中、186名を抱える同志社グリークラブ第31代指揮者を務め、卒業後の12月「千年の古都・京都に世界一の合唱団を」の理想を掲げ「合唱団京都エコー」を結成。

全日本合唱コンクールに於いて、合唱団京都エコー(20年連続金賞受賞)、住友金属混声合唱団(13年連続金賞受賞)を率い、金賞受賞は合計38回、うちコンクール大賞(部門を越えて最も優れた団体に贈られる)を6度受賞。現在、合唱団京都エコー、新日鐵住金混声合唱団、法政大学アカデミー合唱団、同志社混声合唱団こまき、女声合唱団かがやき、女声合唱団ひかりとともに他、多くの合唱団を指揮。その他、客演や合唱講習会の講師、コンクール審査員としても多忙を極めている。

現在、福島県しゃくなげ大使、全日本合唱連盟理事長、全日本合唱センター館長、日本合唱指揮者協会相談役、国際合唱連合(IFCM)理事。

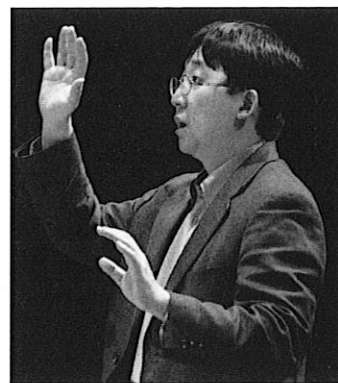
## 【演奏会に寄せて】

昨年に引き続き同志社グリークラブを指揮できること、大変うれしく思っています。昨年は、宮沢賢治の永訣の朝を現役諸君と一緒に演奏し、自分自身にとって大変思い出に残るステージを持つことができ感謝しています。

今年は、高田三郎先生 生誕100年にあたり、日本の合唱史に残る名曲「水のいのち」を取り上げました。良いものは、良い。素晴らしいものは、やはり素晴らしい。幾度となく演奏される「水のいのち」は、しかしその都度、世界に二つとない、最高のものでなければならないと思っています。

水のいのちに、人のいのちを重ねて語られるこの曲。やがて、大いなる懐(ふところ)へと帰りゆく命の連なり。生まれも育ちも異なる者たちが、同じ人間どうし、互いの命を温かく生きる時代が来ることを、心から願っています。

我ら同志社グリークラブが生んだ、今、全国で最も多忙を極める稀代の伊東恵司指揮者のもと、同志社グリークラブが着実な歩みを続け、世界に発展していってくれることを願います。



◇指揮者 伊東 恵司

京都市在住。1990年同志社大学を卒業(ポストモダン芸術論を専攻)。同志社グリークラブ学生指揮者として福永陽一郎に師事。'90年以降多数の合唱団で合唱指導を開始。'99年から出場した全日本合唱コンクールでは「なにわコラリアーズ」の10年連続金賞を始め複数の合唱団で19個の金賞を受賞。現在は、全国各地で審査員や合唱指導を引き受けるほか、「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル(京都)」「コーラスめっせ(大阪)」「オール新作コンサート」等の新規合唱フェスティバルの主催や、学生指導者合宿・市民参加型合唱劇や世代間を取り結ぶ「京都のわらべ歌プロジェクト」の企画等、合唱を使った多彩な仕掛けを行っている。また、合唱曲の作詞家としても多数の作品が出版され、広く各方面から注目を浴びている。

2012年「学生合唱のためのスチューデントソングブック」(カワイ出版・共編著:名島啓太)を上梓。大阪府・京都府合唱連盟理事、日本合唱指揮者協会関西支部事務局次長、21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」会員。ホームページは<http://www.yumemirusakananoabuku.jp/>

## 【演奏会に寄せて】

嬉しいことに同志社グリークラブは昨年より京都コンサートホールを使った定期演奏会を開催しています。私が正式に技術顧問として就任した時点では四学年合わせても20人程しかいなかったわけですから、その時期に頑張ってくれた先輩たちの努力を含め、今年の四回生をはじめとする現役グリーンメンの一生懸命の頑張りに敬意を表したいと思います。

さて、昨年に引き続いて今年も大変ご多忙な中、私たちの誇る偉大な先輩でもあり、全日本合唱連盟理事長を務めておられる浅井敬壹先生をお迎えすることが出来ました。きっと学生たちは情熱ほとばしる演奏をしてくれることでしょう。私のほうはコンクールでも発表した信長貴富先生の「ラグビー」の再演と、高嶋みどり先生が同志社グリークラブの演奏のために改訂くださった男声合唱版「風に鳴る笛」を演奏させていただくことになっています。ともに熱い演奏をしたいと思っております。

練習を通して、四回生から下回生へのメッセージが伝わり、グリークラブに連綿と続く魂のようなものを受け継いで行ってくれればと思っています。ひたむきに歌うこと、ひたむきに取り組むこと、そうやって目の前のことだけを考えながらの109年間だと思っております。今年の同志社グリークラブの精一杯の演奏をお聞きください。





◇ピアノ(第五ステージ) 藤澤 篤子

相愛女子大学(現 相愛大学)音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。  
故武田邦夫、故井口基成、志賀宗三郎の諸氏に師事。管弦楽とピアノの為のカプリチオ(メンデルスゾーン)、四台のピアノ協奏曲(バッハ)、デュオコンサート等に出演の他、多くの声楽家、合唱団と、リサイタル、コンクール、CD録音等で共演。東芝EMIより「日本の四季」「方舟」、BMGビクターより「風に鳴る笛」等のCDでピアニストとして演奏。2002年2月に開催された『サウンド・ルート2002日本⇄ロシア』にて、高嶋みどり作曲《マウイの風 ピアノのための》を初演し好評を得た。2005年7月京都で行われた世界合唱シンポジウムにてJürgen Faßbender氏と、2011年9月京都にてBob Chilcott氏と共演。また日本のみならず海外での公演も数々行う。

これらの業績は、彼女の確かなテクニック、深い音楽性、優れたアンサンブル能力なしには考えられない。繊細かつ大胆、そして多彩な音色が合唱世界を広げ、淀みのない流れは音楽の説得力を増す。それゆえ、彼女に伴奏してもらった誰もが、愛情あふれる温かなピアノに包まれて、至福の時を過ごす。そして、その音楽に触れた多くの指揮者や作曲家が彼女に絶大な信頼を寄せる。

1992年長井賞、2008年藤堂賞 受賞。

◇ピアノ(第二ステージ) 内藤 典子

大阪音楽大学卒業後、同大学音楽専攻科ピアノ修了。2005年ブラハサマーアカデミーに参加、ファイナルセッションに出演。なにも芸術祭新進演奏家競演会、尼崎アルカイック新人演奏会に出演。2010年トスティ歌曲国際コンクールアジア予選大会にて、トスティ・ピアノ伴奏賞受賞。現在、関西歌劇団、カレッジオペラハウスでピアニストを務める。

大阪音楽大学附属音楽院オペラ研修所講師。兵庫県立神戸高等学校合唱部ピアニスト。日本演奏家連盟、神戸音楽家協会各会員。



◇ピアノ(第三ステージ) 松井 萌

京都市立音楽高等学校(現・京都市立京都堀川音楽高等学校)、同志社女子大学卒業。新島賞受賞。京都市立芸術大学大学院修士課程修了。仙田緑、鶴田裕子、古新薫、阿部裕之、谷千鶴、松田康子、坂井千春の各氏に師事。2001年京都ピアノコンクール本選D部門銅賞、第二回大阪国際音楽コンクールピアノ部門高等学校の部奨励賞、第11回日本クラシック音楽コンクール兵庫地区本選高校の部ピアノ部門好演賞、第7回ショパンの会(祝・21世紀)コンクールピアノ演奏部門Cクラス奨励賞。2009年青山音楽記念館にてソロ・リサイタルを開催。松井彩との姉妹デュオ(Piano duo Sonare)にて、第4回かやぶき音楽堂デュオコンクール第2位。京都音楽家クラブ、日本音楽表現学会会員。京都橘大学レクチャー講師、平安女学院大学嘱託講師(ピアノ)、京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会「京都子どもの音楽教室」特別研究員。



◇パーカッション 森田 貴史

大阪府茨木市出身。12歳より打楽器を始める。大阪音楽大学短期大学部音楽科打楽器コースを卒業。同校卒業演奏会に出演。第三年次編入を経て、現在大阪音楽大学器楽学科打楽器専攻に在学中。小中学校への訪問演奏やライブハウスなどでの演奏、吹奏楽、オーケストラ、現代音楽からポップスまで幅広いジャンルを演奏し、クラシックだけにとらわれない演奏活動を心がけている。

打楽器を北野徹に師事。



◇ヴォイストレーナー 北村 敏則

京都市立芸術大学声楽専攻卒業。同大学院修了後ウィーン留学。音楽学部賞及び大学院賞を受賞。第2回日本シューベルト協会(J.S.G)国際歌曲コンクール第1位および聴衆審査特別賞受賞。第6回ボルツァーノ(北イタリア)歌曲コンクール第1位及びアダ・ヴェルバ賞受賞。第1回青山音楽賞、京都市芸術新人賞受賞。現在、京都市立芸術大学准教授、関西二期会会員、日本シューベルト協会会員。



◇ヴォイストレーナー 石原 祐介

崇徳高校、京都産業大学に在学中はグリークラブに所属、男声合唱にあけくれる青春時代を過ごす。その後、京都市立芸術大学、同大学院声楽専攻を卒業、修了。卒業時に音楽学部賞を受賞。第21回飯塚新人音楽コンクール第2位。World Youth Choir 1997~1999、World Chamber Choir 2009日本代表メンバー。

声楽を灘井誠、山口はやとの各氏に、合唱指揮を吉村信良氏に師事。

現在、神戸市混声合唱団コンサートマスター。京都市立芸術大学非常勤講師。日本合唱指揮者協会会員。



◇第81代学生指揮者 長谷川 裕也

1991年10月5日、兵庫県尼崎市に生まれる。大学進学までに尼崎市立立花中学校合唱部、尼崎市立尼崎高等学校合唱同好会、混声合唱団「花みずき」、大阪アカデミー合唱団に在籍。高校卒業後、同志社大学法学部法律学科に進学、同時に同志社グリークラブに所属し、第81代学生指揮者を務める。

中学時代から合唱の世界に入り、合唱とともに人生を送ってきた彼は、団内でも屈指の合唱経験者である。また国内国外を問わず幅広い合唱の知識・技術・歴史を熟知しており、これらを基にグリーメンたちを知識・技術の両面から鍛え上げている。尊敬する合唱人として、岡本尚子氏(現武庫川女子大学附属中高コーラス部顧問)がいる。

第109回定期演奏会にあたり、信長貴富氏が作曲した男声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」を学生指揮者曲として選曲した。同志社グリークラブにおける4年間の集大成として、彼の創り上げる音楽を心ゆくまで楽しんでいただければ幸いである。



第1ステージ

男声合唱曲『ラグビー』

■作詩／竹中 郁  
 ■作曲／信長 貴富  
 ■指揮／伊東 恵司  
 ■パーカッション／森田 貴史

◆曲目解説

男声合唱曲『ラグビー』は、3声×4群編成の12声部からなる楽曲である。全音音階と完全音程が基調となっており、ところどころ増三和音の衝撃的な和声が鳴り響くのが特徴的である。4群編成というと複雑に見えるが、これによって音の空間的立体性が生まれている。声の囁きや生み出された音像が群を移動していき、鋭いパッセージを合図に曲が変容していく。ソロによるナレーションの後、ハイハット・シンバルが緊張を増すがごとく奏される。第23連の「Try!」において圧倒的な高揚を迎えるが、やがて収束し、静かな囁きと共に曲が閉じられる。

詩人の竹中郁(1904～1982)は、神戸で生まれ、関西学院に在学中に詩集を発表。その後、渡欧している。パリ留学中にモダニズムの風潮を強く受け、「ラグビー」は、当時流行していたシネポエムというスタイルで書かれている。この詩にはパリ留学中に聴いた「交響的断章第2番(オネゲル)」の印象も大きく影響しているという。

この詩の背景となった「モダニズム」とはなんだろうか。一般的には芸術の「現代性」を指す言葉であるが、ここでは、竹中郁が留学していた時代にフランスで盛んだった「シュールレアリスム」について焦点を当ててみよう。

シュールレアリスムを一言で表すなら、それはまさに「解剖台の上のミシンと洋傘の偶然の出会い」だと言えるだろう。なんの脈絡もなく提示されている「ミシン」と「洋傘」であるが、レヴィ＝ストロースが鮮やかに解いてみせたように、これらには意表をついた共有点がある。一見すると無関係な諸要素は、それぞれを解体することで、言語学的・意味的・物的に、意外な対比・類似性を内包しているのである。

では翻って「ラグビー」を見てみよう。これは、1932年に発表された詩集『象牙海岸』に収録されている。原詩集では「シネポエム(Cinepoeme)」と題された作品中のひとつであり、シネ(cine-)とはすなわち「映画」の意である。これは、映画のように次々と風景が切り替わり、読み手に映像的な印象を与えることができる手法である。この作品の連にはそれぞれ通し番号がつけられているが、各連はさながら映画の1ショットである。

「ラグビー」と題されつつも、もう一つ見えてくるテーマが「工場」である。ラグビーと工場という対立が存しているわけだが、この対比を読み解くのはそれほど困難なことではない。そして、この対比は分かりやすい形で詩の中に表れている。第1～4連にかけてはラグビーのみを表した風景であるが、第5連〈あつ どこへ行きやがった〉を合図に、ラグビーと工場が交錯し、やがて融合する。仔細に観察すると、これらにはいくつか共通点があることがわかる。ラグビーにおける「スクラム」と工場の「歯車」。ラグビーの選手の動きと、工場から放たれる労働者。等々。鮮やかな対比と共に情景が浮かび上がる。

本作はモダニズムの代表的な詩であるが、いくつか別の意味で注目すべき箇所がある。象徴的な部分を取り上げてみよう。

第14連 人間を人間にまで呼び戻すのは旗なのです…

第18連 …歪んでいる青年…

第21連 …機械の中へ食はれてゆく青年…

詩集『象牙海岸』が発表されたのは、1932年であった。初期プロレタリア文学として有名な小林多喜二の『蟹工船』が発表されたのは1929年である。

シュールレアリスムな作風の中で、ささやかな告発が行われているのを見逃してはならない。

◆歌詞

詩集〈象牙海岸〉から  
 ラグビー アルチユウル・オネガ 作曲  
 1 寄せてくる波と泡とその美しい反射と。  
 2 帽子の海。  
 3 Kick off! 開始だ。靴の裏には鉄がある。  
 4 水と空気に溶けてゆく球よ。楕円形よ。石礫の  
 5 《あつ どこへ行きやがった》  
 6 脚。ストッキングに包まれた脚が工場を夢みてゐる。  
 7 仰ぎみる煙突が揃って石炭を焚いてゐる。雄大な朝  
 8 俯向いてゐる青年。考へてゐる青年。額に汗を浮か  
 9 美しい青年の歯。  
 10 心臓が動力する。心臓の午後三時。心臓は工場につ  
 11 昇る圧力計。  
 12 疲労する労働者。鼻孔運動。  
 13 タツクル。横から大きな手だ。五本の指の間から、  
 14 人間の人間にまで呼び戻すのは旗なのです。旗の振  
 15 工場の気笛。白い蒸気。白い蒸気の噴出、花となる。

16 見えぬ脚に踏みつけられて、起きつづける草の感情。  
 17 ドリブル六秒。ころがる球。雨となるベルトの廻転。  
 18 汗をふいて溜息する青年。歪んでいる青年。《球は  
 19 伸び上る青年。松の尖った枝々。  
 20 密集! 機械の胎内。がちちりと喰い合つてゆく歯車。  
 21 ぐつたりとする青年。機械の中へ食はれてゆく青年。  
 22 深い深い睡眠に落ちこむやうに。  
 23 何を蹴つてゐるのだらう。  
 24 胸から下ばかりの青年。  
 25 (ああ僕は自分の首を蹴つてゐる。)  
 26 Try!  
 27 旗、旗旗旗。  
 28 わつと放たれた労働者の流れが、工場の門から市中さ  
 29 さして。夕闇のやうに黒い服で。  
 30 飛んでゆく新聞紙、空気に海月と浮いて……。  
 31 踏切がしまる。近東行急行列車が通りすぎる。全く夜。  
 32 落ちてゐる首。(どこかで見た青年だ。)  
 33 太鼓の擦り打ち、鈍く、鈍く。  
 34 雨だ、雨だ。

※ 原詩を掲載しています。  
 ※ 次の語が作曲者によって曲中に挿入されています。  
 ゴール／ノックオン／ドロップキック／タッチダウン



## 第2ステージ

## 男声合唱組曲『風に鳴る笛』

■作詩／谷川 俊太郎  
 ■作曲／高嶋 みどり  
 ■指揮／伊東 恵司  
 ■ピアノ／内藤 典子

## ◆曲目解説

『大宇宙と無意識世界の神秘』。作曲者高嶋みどり氏は「風に鳴る笛」の序文でこの楽曲について、こう銘打っている。谷川俊太郎氏の詩から、「奏楽」を始め5つの詩選び、それぞれに「神秘」を込めていった。

一曲目「奏楽」について、高嶋氏は『笛の音に託す思い』を表現したという。4分の5拍子を基軸に、笛に吹き込まれていく息を、そして笛の音と共に解き放たれていく我々のところを風のように流れて行く音楽に乗せている。

この「奏楽」を受けて、二曲目の「息」に続く。『自然との戯れと夢幻的な世界との交錯』を歌ったこの「息」は、高嶋氏の楽曲に特徴的な完全4度音程が組み合わされた音楽を通じて、我々をより神秘的な次元へと導く。

特徴的なピアノ伴奏と共に、三曲目の「地球があんまり荒れる日には」が始まる。ピアノ伴奏と合唱それぞれが、『火星との交信』を見事に表現しており、大宇宙の神秘を感じさせる音楽となっている。

「世界じゅうの道が一本の大樹の／枝々のように茂る日はいつか」。これは四曲目「道の夢」の一節である。ジャズ的な伴奏に乗せ、フリーウェイへの道のりを歌いあげる一方、道を進んでいくとやがて「人間の心と心を結ぶ大道に至り」、そして上記の一節へと進んでいく。ここに、高嶋氏の『世界平和への願い』が込められている。

この「風に鳴る笛」の最後を飾るのが「未来」である。前の四曲を通じ、この「未来」では『未来への明るい希望』を高らかに謳っている。我々の頭の上に広がる果てしない青空…その果てに、「未来」は待っているのだ。

昨今我々を取り巻く現実には暗いニュースに覆われ、この時代に閉塞感を覚えるようになった。しかし、我々は音楽を通じて希望を見出すことが出来るのではないだろうか？音楽は我々を超現実的な次元へ誘い、そして私たちのところを解放させてくれる。今こそ、音楽の持つ大きな力を感じようではないか。音楽と共に歩めば、その先に輝く未来が待っている。我々も歌おうではないか、「とこしえの勝利」を目指して…

## ◆歌詞

## 1. 奏楽

きららかの  
 黄金(きん)の楽器に  
 憤る  
 息を吹きこめ  
 冴え渡る  
 銀の楽器に  
 憧れの  
 息を吹きこめ  
 ぬくもりの  
 木の楽器には  
 忘却の  
 息を吹きこめ  
 肉(し)むらに  
 ひそむころを  
 解き放て  
 地平の彼方  
 我等また  
 風に鳴る笛  
 野に立つて  
 息を待つ  
 星々の  
 はた人々の  
 たえまない  
 今日吐息を

## 2. 息

風が息をしている  
 耳たぶのそばで  
 子どもらの声をのせ  
 みずうみを波立たせ  
 風は息をしている  
 虫が息をしている  
 草にすがつて  
 透き通る胎を見せ  
 青空に眼をうつし  
 虫は息をしている  
 星が息をしている  
 どこか遠くで  
 限りなく渦巻いて  
 声もなくまたたいて  
 星は息をしている  
 人が息をしている  
 ひとりぼっちで  
 苦しみを吐き出して  
 哀しみを吸いこんで  
 人は息をしている

## 3. 地球があんまり荒れる日には

地球があんまり荒れる日には  
 僕は火星に呼びかけたくなる  
 こっちは曇で  
 気圧も低く  
 風も強くなるばかり  
 おおい！  
 そっちはどうだあ  
 月がみている  
 全く冷静な第三者として  
 沢山の星の注視が痛い  
 まだまだ幼い地球の子等よ  
 地球があんまり荒れる日には  
 火星の赤さが温いのだ

## 4. 道の夢

どぶ板鳴らして路地を曲れば  
 終日駐車禁止の街道で  
 一寸きざみに街道行けば  
 永久に工事中の国道だ  
 (だが)ほこりまみれで国道ぬけると  
 突然あこがれのフリーウェイ  
 時速百軒野越え海越え  
 いっきよに聖火の道をたどり  
 たちまち光速よりもさらに早く  
 人間の心と心をむすぶ大道に至る  
 世界じゅうの道が一本の大樹の  
 枝々のように茂る日はいつか

## 5. 未来

青空に向かつて僕は竹竿をたてた  
 それは未来のようだった  
 きまつている長さをこえて  
 どこまでもどこまでも  
 青空にとけこむようだった  
 青空の底には  
 無限の歴史が昇華している  
 僕もまたそれに加わろうと—  
 青空の底には  
 とこしえの勝利がある  
 僕もまたそれを目指して—  
 青空に向かつて僕はまっすぐ竹竿をたてた  
 それは未来のようだった



## 第3ステージ

## 男声合唱とピアノのための『くちびるに歌を』

■作 詩／Hermann Hesse ほか  
 ■作 曲／信長 貴富  
 ■指 揮／長谷川 裕也  
 ■ピアノ／松井 萌

## ◆曲目解説

現在でこそ邦人作曲家の作品が多くなっているが、それでも異国情緒ある海外への憧憬は止むことがない。  
 『くちびるに歌を』は、日本語だけでなくドイツ語も用いることで、ロマンティックで豊かな響きを生み出している組曲である。その結果、作曲者のことばを借りれば、「二カ国語が交錯し、融合し、響きに昇華していく」様子が見事に描き出されている。

組曲に選ばれた4つの詩は、どれも日本では広く知られているものであろう。

〈白い雲〉は、ヘッセの有名な詩であるが、冒頭のピアノが「さすらう」様子を象徴的に表現している。分散和音を基調とする、流れるような音楽は、さながら漂う雲のようである。

〈わすれなぐさ〉は、中世ドイツの悲恋伝説に基づく詩である。中世の騎士が、恋人のために美しい花を採ろうとした。しかし、騎士は足を滑らせて川に落ちてしまう。最後の力を振り絞って、騎士はその花を岸に投げた。「私を忘れないで」と叫びながら…。日本では、上田敏の訳詩集である『海潮音』に収められている。ピアノが奏でる幻想的な音楽の中から、霧をかき分けるようにメロディが現れる。やがてそのメロディ同士が交差し、絡み合い、やがて収斂する。原詩のもつ伝説的な雰囲気、音のぶつかりによって巧みに表現される。

〈秋〉は、前の二曲とは打って変わって、重々しい雰囲気をもっている。西洋の詩人たちは、「秋」という季節に對して、暗いイメージを持っているのだろうか。しかし、その淋しさのなかにも、ほのかに明るさを見ることが出来る。そのわずかな明るさは、暗い秋にあっても我々をやさしく支えてくれるだろう。

〈くちびるに歌を〉は言わずと知れた名詩であり、作曲者によって詩の一部が抜粋されて用いられている。どんなときでも歌う、ということは簡単なことではない。つらいとき、苦しいとき、争いに満ちている時に、はたして我々は歌うことができるのか。歌うことは許されるのか。自らに問いかけるかのように、逡巡するような音色も響く。しかし、その迷いは次第に確信に変わっていく。曲は時折、確認するように立ち止まるが、やがて一步一步、ピアノと共に踏みしめるように前進し、最後はfffの豊かな響きで組曲が閉じられる。それは確信であり、歌う喜びである。

## ◆歌詞

## 1. Weiße Wolken Hermann Hesse 詩

O schau, sie schweben wieder  
 Wie leise Melodien  
 Vergessener schöner Lieder  
 Am blauen Himmel hin!

Kein Herz kann sie verstehen,  
 Dem nicht auf langer Fahrt  
 Ein Wissen von allen Wehen  
 Und Freuden des Wanderns ward.

Ich liebe die Weißen, Losen  
 Wie Sonne, Meer und Wind,  
 Weil sie der Heimatlosen  
 Schwestern und Engel sind.

## 2. Vergißmeinnicht Wilhelm Arent 詩

Ein Blümchen steht am Strom  
 Blau wie des Himmels Dom;  
 Und jede Welle küßt es,  
 Und jede auch vergißt es.

## 3. Herbst Rainer Maria Rilke 詩

Die Blätter fallen, fallen wie von weit,  
 als welkten in den Himmeln ferne Gärten;  
 sie fallen mit verneinender Gebärde.

Und in den Nächten fällt die schwere Erde  
 aus allen Sternen in die Einsamkeit.

Wir alle fallen. Diese Hand da fällt.  
 Und sieh dir andre an: es ist in allen.

(Und doch ist Einer, welcher dieses Fallen  
 unendlich sanft in seinen Händen hält.)

## 4. Hab' Sonne im Herzen César Fleischlen 詩

(Hab' Sonne im Herzen,  
 obs stürmt oder schneit  
 ob der Himmel voll Wolken,  
 die Erde voll Streit!  
 Hab' Sonne im Herzen,  
 dann komme, was mag!  
 Das leuchtet voll Licht dir  
 den dunkelsten Tag!)

Hab' ein Lied auf den Lippen  
 mit fröhlichem Klang,  
 und macht auch des Alltags  
 Gedränge dich bang!  
 Hab' ein Lied auf den Lippen,  
 dann komme, was mag!  
 Das hilft dir verwinden  
 den einsamsten Tag!

(Hab' ein Wort auch für andre  
 in Sorg' und in Pein,  
 und sag', was dich selber  
 so frohgemut läßt sein:  
 Hab' ein Lied auf den Lippen,  
 verlier' nie den Mut,  
 hab' Sonne im Herzen, und alles wird gut!)

## 1. 白い雲 高橋健二 訳

おお見よ、白い雲はまた  
 忘れられた美しい歌の  
 かすかなメロディのように  
 青い空をあなたへ漂って行く!

(長い旅路にあつて  
 さすらいの) 悲しみと喜びを  
 味わいつくした者でなければ、  
 あの雲の心はわからない。

(私は、太陽や海や風のように  
 白いもの、定めないものが好きだ。  
 それは、ふるさとを離れたさすらい人の  
 姉妹であり天使であるのだから。)

## 2. わすれなぐさ 上田 敏 訳

ながれのきしのひともとは、  
 みそらのいろのみづあさぎ、  
 なみ、ことごとく、くちづけし  
 はた、ことごとく、わすれゆく。

## 3. 秋 茅野蕭々 訳

葉が落ちる、遠くからのやうに落ちる。  
 大空の遠い園が枯れるように、  
 ものを否定する身振で落ちる。

さうして重い地は夜々に  
 あらゆる星の中から寂寥へ落ちる。

我々はすべて落ちる。この手も落ちる。  
 (他をごらん。すべてに落下がある。)

しかし一人ある、この落下を、  
 限りなく優しく両手で支へる者が。

## 4. くちびるに歌を【原題：心に太陽を持って】

信長貴富 歌詞構成・訳

くちびるに歌を持って  
 心に太陽を持って  
 ひとのためにも言葉を持って  
 そしてこう語りかけよう—  
 嵐が吹こうと  
 吹雪が来ようと  
 地上が争いで満たされようと  
 くちびるに歌を持って  
 心に太陽を持って  
 ひとのためにも言葉を持って

※下線部は曲中では  
 「青空をあなたへ漂いゆく」

※( )内は作曲されていません



## 第4ステージ

## 『クリスマスの祈り』

第4ステージでは「クリスマスの祈り」と題して、クリスマスに相応しい祈りの曲をセレクトしました。同志社グリークラブが送る、一足早いクリスマスを、どうぞお楽しみ下さい。

- Joy to the World !
- Ave Maria
- Amazing Grace
- くしき星よ
- Ain-'a That Good News !



## ◆歌詞

## 1. Joy to the World

Joy to the World, the Lord is come!  
Let earth receive her King,  
Let every heart prepare Him room,  
And Heaven and nature sing,  
And Heaven and nature sing,  
And Heaven, and Heaven, and nature sing.

He rules the world with truth and grace,  
And makes the nations prove  
The glories of His righteousness,  
The wonders of His love,  
The wonders of His love,  
The wonders, the wonders, of His love.

## 2. Ave Maria

Ave Maria, gratia plena,  
Dominus tecum,  
benedicta tu in mulieribus,  
et benedictus fructus ventris tui Jesus.  
Sancta Maria mater Dei,  
ora pro nobis peccatoribus,  
nunc, et in hora mortis nostrae.  
Amen.

## 3. Amazing Grace

Amazing grace! how sweet the sound  
That saved a wretch like me!  
I once was lost but now am found  
Was blind, but now I see.

(Twas grace that taught my heart to fear.  
And grace those fears relieved;  
How precious did that grace appear,  
The hour I first believed.)

Through many dangers, toils and snares.  
I have already come;  
'Tis grace has brought me safe thus far,  
And grace will lead me home.

When we've been there ten thousand years,  
Bright shining as the sun,  
We've no less days to sing God's praise  
Then when we first begun

## 4. くしき星よ

くしき星よ 闇の夜に いよいよ光り輝き  
救い主の在す村に とく導き行けかし

窓漏る風いと寒き 飼い葉桶に臥し給う  
嬰兒こそ畏くも 君の君にましませ

さらば我ら 海山の 真玉、黄金、しろがね  
匂い物を取り集め 献ぐべきか、御前に

類あらぬ宝さえ 奉るに足らねど  
貧しき身のほめ歌を 主は喜び受けまさん

## 5. Ain-'a That Good News!

I got a crown up in-a the Kingdom,  
Ain-'a that good news!

I'm a-goin' to lay down this worl',  
Goin'-a shoulder up-ur my cross,  
Goin'-a take it home-a to my Jesus,  
Ain-'a that good news!

I got a harp up in-a the Kingdom,  
Ain-'a that good news!

I got a robe up in-a the Kingdom,  
Ain-'a that good news!

I got a Saviour in-a the Kingdom,  
Ain-'a that good news!



## 第5ステージ

## 男声合唱組曲『水のいのち』

■作 詩／高野 喜久雄  
 ■作 曲／高田 三郎  
 ■指 揮／浅井 敬壹  
 ■ピアノ／藤澤 篤子

## ◆曲目解説

母なる海。いつごろから使われているのかは知らないが、よく用いられる喩えである。

「海よ、僕らの使ふ文字では、お前の中に母がある。そして母よ、仏蘭西人の言葉では、あなたの中に海がある。」と言ったのは三好達治である。「海」の中には「母」がいて、母(Mere)の中には海(Mer)がいる。

「雨」が降り出すところから『水のいのち』の幕は開く。天から降る雨はすべてのものに降り注ぎ、誰に対しても無条件である。終始落ち着いた曲調で、ピアノの柔らかな分散和音がしつとりと降り注ぐ雨を連想とさせる。

降りしきった雨は地上で「水たまり」となる。どこにも流れることがなく、いつの間にか消えている。ひよっとすると私たちもそうではないだろうか。水たまりと同様、なすべきことなく、そっと消えてしまう存在。しかしそんな中でも、汚れた水たまりが美しい空を映そうとするが如く、我々にも純粋な思いがあるはずである。スタッカートとレガートの対比によって、曲の中で水たまりが立体的に浮き出してくる。

雨は降ったのちに「川」に流れ込む。川の流れは変わることがない。高い峰から下へ流れるのみである。しかし、川が何であるかを問う必要はない。我々もまた川と同じ存在だからである。曲調は一転して激しくなり、川の流れが12/8拍子で描かれている。余談ではあるが、アマゾン川では「ポロロッカ」という現象があり、潮流が川を逆流することがあるという。

その「川」の行きつく先は「海」である。時に凧ぎ、時に荒れ狂う海であるが、海はすべての源だ。すべてを受け入れ、あるべきところにかえしてくれる。時折、岸に打ち上げられている「満ち足りた死」も、海からのメッセージである。心地よいハミングによって波の満ち引きを表しつつ、大きな海の言葉が語られる。

すべての川にとって海は終着点である。水や芥は浄化され、すべて新しくなる。終着点であった海は始まりとなるのである。そして再び空に向かう。眼には見えない、けれど一途なそのつばさで。こうして水のいのちは循環していく。



「水のいのち」の男声合唱版は1972年に、同志社グリークラブのOB合唱団であるクローバークラブによって初演されている。画像は男声版の書き下ろし譜。

## ◆歌詞

## 1. 雨

降りしきれ 雨よ  
 降りしきれ  
 すべて  
 立ちすくむものの上に  
 また  
 横たわるものの上に

降りしきれ 雨よ  
 降りしきれ  
 すべて  
 許しあうものの上に  
 また  
 許しあえぬものの上に

降りしきれ 雨よ  
 わけへだてなく  
 涸(か)れた井戸  
 踏まれた芝生  
 こと切れた梢(こずえ)  
 なお ふみ耐える根に

降りしきれ  
 そして 立ちかえらせよ  
 井戸を井戸に  
 庭を庭に  
 木立を木立に  
 土を土に

おお すべてを  
 そのものに  
 そのものにて

## 2. 水たまり

わだちの くぼみ  
 そのの この  
 くぼみにたまる  
 水たまり  
 流れるすべも めあてもなくて  
 ただ  
 だまって  
 たまるほかはない  
 どこにもある 水たまり  
 やがて  
 消え伏せてゆく  
 水たまり  
 わたしたちに肖(に)ている  
 水たまり

わたしたちの深さ  
 それは泥の深さ  
 わたしたちの言葉  
 それは泥の言葉  
 泥のちぎり  
 泥のうなずき  
 泥のまどい

だが

わたしたちにも  
 いちはないか  
 空に向う  
 いちはないか  
 あの水たまりの にごった水が  
 空を うつそうとする  
 ささやかな  
 けれどもいちぢずないのちはないのか

うつした空の  
 青さのように  
 澄もう と苦しむ  
 小さなところ  
 うつした空の  
 高さのままに  
 在ろう と苦しむ  
 小さなところ

## 3. 川

何故 さかのぼれないか  
 何故 低い方へゆくほかはないか

よどむ淵 くるめく渦のいらだち  
 まこと 川は山にこがれ  
 きりたつ峰にこがれるいのち  
 空の高みにこがれるいのち

山にこがれて 石をみごもり  
 空にこがれて 魚をみごもる  
 さからう石は 山の形  
 さかのぼる魚は 空を耐える

だが やはり 下へ下へと  
 ゆくほかはない 川の流れ

おお 川は何か  
 川は何かと問うことを止めよ  
 わたしたちもまた  
 同じ石を 同じ魚を みごもるもの  
 川のこがれを こがれ生きるもの

## 4. 海

空をうつそうとして  
 波一つなく 凧ぐこともある  
 岩と混じれなくて  
 ひねもす  
 たけり狂うこともある

しかし  
 凡ての川はみな  
 そなたをさして常に流れた  
 底に沈むべきものは沈め  
 空にかえすべきものは  
 空にかえした

人でさえ 行けなくなれば  
 そなたを さしてゆく  
 そなたの中の 一人の母をさしてゆく

そして そなたは  
 時経てから 充分足りた死を  
 そっと岸辺にうち上げる  
 みなさい  
 これを 見なさい と云いたげに

## 5. 海よ

ありとある 芥  
 よごれ 疲れはてた水  
 受け容れて  
 すべて 受け容れて  
 つねに あたらしくよみがえる  
 海の 不可思議

休まない 汀  
 波の指 白い指 くりかえし  
 うまず くりかえし  
 億の砂 億の小石を  
 数えつづける  
 海の 不可思議

くらげは 海の月  
 ひどでは 海の星  
 海蟹 海の馬 空にこがれ  
 あこや貝は 光を抱いている

そして 深く暗い 海の底では  
 下から上へ  
 まこと 下から上へ  
 雪は  
 白い雪は 降りしきる

おお 海よ  
 たえまない 始まりよ  
 あふれるに みえて  
 あふれる ことはなく  
 終るかに みえて  
 終ることもなく  
 億年の むかしも いまも  
 そなたは  
 いつも 始まりだ  
 おお 空へ  
 空の高みへの 始まりなのだ

のぼれ のぼりゆけ  
 そなた 水のこがれ  
 そなた 水のいのちよ

たとえ 己の重さに  
 逆いきれず  
 雲となり  
 また ふたたび降るとしても

のぼれ のぼりゆけ  
 みえない つばさ  
 いぢずな つばさ あるかぎり  
 のぼれ のぼりゆけ  
 おお



## 同志社グリーンクラブ組織図

■顧問:岸 基史  
■技術顧問:伊東 恵司

■ヴォイストレーナー:北村 敏則  
石原 祐介  
■専属ピアニスト :松井 萌

幹事長 小淵 崇裕	ステージマネージャー 小松 佑史	第81代学生指揮者 長谷川 裕也
副幹事長 小林 聖	鈴木 寛弥 (サブ)	学生副指揮者 安村 真也
内政 小椋 洋介	西垣 友裕 (サブ)	トップテノールパートリーダー 長谷川 裕也
外政 (京都) 多治見 真孝 (サブ)	金澤 陽貴	安村 真也 (サブ)
高田 秀平	伊藤 晃大	松本 瞬
金澤 陽貴 (サブ)	横山 将之	梅野 哲平 (サブ)
渡辺 愛 (サブ)	主務 小松 佑史	バリトンパートリーダー 奈須 浩泰
間宮 樹 (サブ)	資料備品担当 小淵 崇裕	正木 伸吾 (サブ)
森下 拓矢 (サブ)	広報担当 市川 耀	荒木 泰人
外政 (大阪兵庫) 外山 英寿	堀角 優一 (サブ)	弓中 光雄 (サブ)
外政 (東西四連) 江川 裕和	伊藤 晃大 (サブ)	
松井 充基 (サブ)	澤田 拓弥 (サブ)	
武田 直大 (サブ)	藤井 隆亮 (サブ)	
山口 巧 (サブ)	久保 雄一 (サブ)	

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
長谷川 裕也 (法4・尼崎市立尼崎)	松本 瞬 (法4・野田学園)	堀角 優一 (理工4・鞍手)	荒木 泰人 (法4・彦根東)
小椋 洋介 (法4・河瀬)	外山 英寿 (理工4・聖隷クリストファー)	市川 耀 (理工4・津)	江川 裕和 (経4・春日丘)
金澤 陽貴 (経3・春日丘)	小林 聖 (理工3・岡山朝日)	石川 明彦 (法4・藤枝明誠)	松井 充基 (文4・三重県立上野)
鈴木 寛弥 (理工3・黒沢尻北)	武田 直大 (文3・洛南)	小松 佑史 (理工4・名古屋西)	小淵 崇裕 (法4・洛南)
渡辺 愛 (理工3・新島学園)	多治見 真孝 (理工3・帝京可児)	奈須 浩泰 (理工4・延岡)	澤田 拓弥 (理工3・開明)
安村 真也 (法3・豊田西)	梅野 哲平 (理工3・西京)	高田 秀平 (法4・鳥取西)	弓中 光雄 (理工3・岸和田)
足立 挑 (文2・同志社)	北園 雄汰 (理工2・香住丘)	伊藤 晃大 (経済3・郁文館)	藤井 隆亮 (理工2・同志社)
後藤 大介 (理工2・北摂三田)	工藤 優也 (文2・岩手)	山本 祐輝 (理工3・明治学園)	波多野 航平 (理工2・春日丘)
横山 将之 (経済2・南山)	森下 拓矢 (理工2・科学技術)	桑原 大典 (理工2・虎姫)	久保 雄一 (経済2・関大北陽)
東 大生 (政策1・同志社)	沖村 明彦 (経済2・柳井)	間宮 樹 (経済2・清風)	中村 直樹 (法2・松蔭)
春岡 宜龍 (社会1・明治学園)	藤島 雄磨 (心理1・伊那北)	正木 伸吾 (理工2・関西創価)	谷口 充弘 (理工2・洛北)
稲葉 厚介 (理工1・県立西尾)	草野 由樹 (文1・玉名)	西垣 友裕 (法2・清風)	上遠野 諒平 (商1・明星)
西谷 祐輝 (文1・川西緑台)	齋藤 寛悟 (理工1・同志社)	山口 巧 (文化情報2・桑名)	黒澤 優太 (経済1・同志社国際)
大野 岳 (商1・松山東)		同道 洋輝 (法1・今宮)	南 公貴 (法1・片山学園)
山口 晴 (文1・旭丘)		堀池 真平 (理工1・大成学院大学)	小倉 裕一郎 (商1・金蘭千里)
		久保 智洋 (理工1・富士学苑)	
		森 拓人 (商1・箕島)	
		中川 大治郎 (政策1・福岡大学付属大濠)	
		塩谷 涉 (理工1・名古屋大学教育学部附属)	
		竹内 誉満 (経済1・半田)	
		山口 雄人 (心理1・北野)	

MANAGER
廣瀬 薫 (文4・立命館慶祥)
徳升 沙妃 (同女・表象文化3・県立富山南)
山中 玲佳 (経済2・徳島文理)
岡田 春菜 (理工1・札幌北)



八千高原  
TANITSUNE

ホテル

# 谷 常

氷ノ山・後山・那岐山国定公園



〒667-1100 兵庫県養父市八千高原  
ホテル谷常 ☎ (079) 667-8316 (代)  
FAX (079) 667-8318

http://www.tanitsune.com
サマーコンサートの御成功をお祈りいたします

e-mail tanitsune@tanitsune.com
只今、各種合宿受け入れ中です

謝 辞

この度は、第66回全日本合唱コンクールへの遠征、並びに第109回同志社グリークラブ定期演奏会に、数多くのご協賛を賜り厚く御礼申し上げます。今後とも同志社グリークラブをご支援いただきますようお願い申し上げます。皆様のますますのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

同志社グリークラブ

OB協賛名簿 [敬称略]

前窪 一雄 (昭和18年)	畑中 宣彦 (昭和39年)	大崎 保則 (昭和50年)	吉岡 康彦 (昭和63年)
長島 俊司 (昭和24年)	松本 慎一 (昭和39年)	村上 一夫 (昭和51年)	八幡 諭 (昭和63年)
富永 光雄 (昭和26年)	大熊 政次 (昭和40年)	有本 圭希 (昭和52年)	石井 元博 (昭和63年)
真下 喜二郎 (昭和26年)	竹上 一郎 (昭和40年)	山下 裕司 (昭和52年)	柄木 義博 (平成1年)
※正木 康雄 (昭和28年)	川北 純二 (昭和40年)	高谷 博次 (昭和52年)	瀬戸 正己 (平成1年)
鈴木 健三 (昭和29年)	山田 至孝 (昭和40年)	徳山 康彦 (昭和53年)	佐々木 昭憲 (平成2年)
吉川 悟一郎 (昭和29年)	滝沢 裕人 (昭和41年)	松本 潤一郎 (昭和53年)	栗田 陽一 (平成2年)
野村 忠 (昭和31年)	北村 徹男 (昭和41年)	森島 敏夫 (昭和53年)	廣島 映一 (平成2年)
今藤 勇 (昭和31年)	小亀 豊 (昭和41年)	廣瀬 健 (昭和54年)	川口 晃司 (平成3年)
菅野 弘 (昭和31年)	木下 利彦 (昭和41年)	岡崎 康高 (昭和56年)	吉本 昌史 (平成4年)
寒河江 正 (昭和32年)	吉田 晋 (昭和41年)	鈴木 恒一 (昭和56年)	林 克己 (平成5年)
山元 弘 (昭和32年)	大原 康弘 (昭和41年)	芦田 直幸 (昭和57年)	谷本 啓 (平成6年)
森田 秀夫 (昭和34年)	小川 徹 (昭和41年)	北尾 俊明 (昭和57年)	淵本 友隆 (平成15年)
芳崎 榮治 (昭和34年)	森田 恒孝 (昭和41年)	筒井 隆文 (昭和57年)	山中 彰 (平成20年)
砂原 和彌 (昭和35年)	影田 武道 (昭和41年)	豊田 尚紀 (昭和59年)	西田 拓也 (平成23年)
山田 英二 (昭和36年)	栗山 昭男 (昭和42年)	鋒山 琢磨 (昭和59年)	池田 恭平 (平成25年)
渡辺 弘道 (昭和36年)	館 和道 (昭和42年)	須藤 彰治 (昭和59年)	村瀬 匡貴 (平成25年)
祖父江 重 (昭和37年)	澁谷 和彦 (昭和42年)	中小路 智一 (昭和60年)	
浅井 敬壹 (昭和37年)	川上 貴裕 (昭和43年)	河村 一良 (昭和60年)	
真野 光長 (昭和38年)	久野 春雄 (昭和43年)	辻 透 (昭和60年)	
高田 一三 (昭和38年)	中根 敏雄 (昭和43年)	大嶋 誠司 (昭和60年)	
林田 慎也 (昭和38年)	檜垣 康治 (昭和44年)	神谷 伸行 (昭和61年)	
幸田 長明 (昭和38年)	藤田 和久 (昭和44年)	梅村 雅彦 (昭和62年)	
山中 信興 (昭和39年)	大西 秀孝 (昭和46年)	奥野 和敏 (昭和62年)	
後藤 健夫 (昭和39年)	今藤 恵証 (昭和50年)	高梨 純 (昭和62年)	
牧田 勝久 (昭和39年)	松村 俊明 (昭和50年)	梅田 隆司 (昭和63年)	

有)エヌ.ケイ通商  
2013年度30年会

※故正木康雄先輩の奥様  
正木ミツエ様より協賛金  
を賜りました。

名物 田毎そば

KYOTO  
御蕎麦  
SINCE 1867



三条本店 三条通寺町東入 ☎221-3030 ●営業時間 午前11時～午後9時迄  
府庁前店 京都府庁正門前 ☎255-7775

あなたの街のカーディーラー  
長いおつきあいを考えます

田中モータース

各種新車, 中古車販売

〒503-1316

岐阜県養老郡養老町押越 981 番地 5

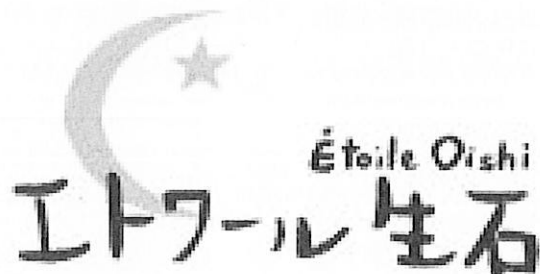
取扱保険会社：損保ジャパン、あいおいニッセイ同和損保

TEL: 0584-32-0289

～淡路島 海と山に囲まれた自然豊かな公共の宿～

各種音楽合宿受付中!!

30名様より貸切 OK!!



エトワール生石

〒656-2543

兵庫県洲本市由良町由良 2605-1

TEL: 0799-25-7033 FAX: 0799-25-7035

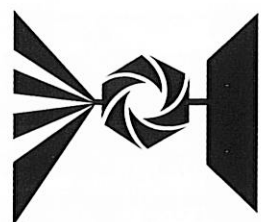
きらめく瞬間を未来に伝えたい。

50th Anniversary

おかげさまで株式会社大阪フォトサービスは、  
創業 50 周年を迎えました。

本社：大阪 事務所：札幌・東京・福岡

http://www.osakaphoto.co.jp/ E-mail:sales@osakaphoto.co.jp



OSAKA PHOTO SERVICE

株式会社大阪フォトサービス

〒550-0023 大阪市西区千代崎 2 丁目 20-9

TEL. 06-6581-7005 FAX. 06-6581-7033



日本教育旅行

http://www.net-freeway.com

合宿・ゼミ旅行・温泉・ボード旅行など  
お気軽にご相談下さい。

日本教育旅行株式会社

〒600-8155 京都市下京区西玉水町 287

TEL: 075-351-0405 FAX: 075-371-7739

担当：小林 未奈



コンサートビデオ 撮影・制作

本日も撮影中

本日のコンサート撮影通算 257 回目



ブルーレイ

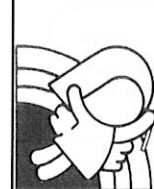


DVD



CD

アマチュア音楽家の記録残します



ビデオ工房スピカ

同志社グリークラブ昭和44年卒

藤田和久

〒563-0036 池田市豊島北2-3-23 電話 072-763-2510 FAX 763-2513

メール svw@cup.com ホームページURL www.spica-video.ne.jp



王朝文化の  
匠の技のもと  
宇治茶文化を  
ご体験ください。




**京都本店**  
京都府木津川市相楽台3-1-3  
(関西文化学術研究都市内) TEL 0774 (73) 1200  
本社・工場 京都府木津川市山城町上船東作り道11  
TEL 0774 (28) 6810  
<http://www.fukujuen-kyotohonten.com>

CHA研究センター 京都府木津川市相楽台3-1-3  
(関西文化学術研究都市内) TEL 0774 (73) 1200  
TEL 075 (221) 2920

宇治茶づくりを  
ご体験ください。  
**宇治茶工房**  
宇治市宇治山田10番地  
(宇治川朝霧橋袂)  
TEL 0774 (20) 1100

宇治茶銘菓「宇治のみどり」  
**宇治茶菓子工房**  
宇治市宇治蓮華35  
(平等院表参道)  
TEL 0774 (28) 6810  
<http://www.ujikoubou.com>

祝 第109回定期演奏会



目の前に広がる琵琶湖。  
光る波、たむろれる水鳥、静かな湖面。  
まわりの彩に酔いしれる。

湖畔に佇む  
びわ湖畔  
政府登録国際観光旅館

**アヤハレークサイドホテル**

〒520-0801 大津市におの浜3丁目2の25 TEL (077) 524-2321 FAX (077) 525-8751

金城学院グリーンクラブ第35回定期演奏会

とき 2014年3月26日(水) 18:00開演 17:15開場  
ところ 愛知県芸術劇場コンサートホール

出演 金城学院中学校グリーンクラブ  
金城学院高等学校グリーンクラブ  
賛助出演 金城学院大学グリーンクラブ エシュコル  
指揮 小原 恒久 宮木 令子  
ピアノ 森 貴美子 柳河瀬 貴子  
ドラムス 小林 啓一

全自由席  
500円

〈プログラム〉  
鈴木憲夫:「マザーテレサ 愛の言葉」 シューマン:女声合唱曲集より  
木下敏子:「春二題」他 小林啓一編曲:ジブリの世界  
松下耕:「うたおり」より 新美徳英:「つぶてソング」第1集

主催 金城学院グリーンクラブ 後援 朝日新聞社 愛知県芸術劇場  
お問い合わせ 052-931-0821 金城中 小原



祝 第109回定期演奏会

北海道岩見沢市幌向1条1丁目67  
真宗大谷派 廣隆寺 TEL 0126-26-2440  
<http://www2.ocn.ne.jp/~jasmine5/>


ステージが映える衣装

お一人お一人の動きに合わせてお創りする衣装

男声ステージコート・・・¥16000、より  
ネクタイ各種・・・¥800、より  
女声ブラウス・・・¥5000、より  
ロングスカート・・・¥9000、より  
ロングドレス・・・¥18000、より

**司屋株式会社**  
大阪市北区芝田1-6-8  
TEL 06-6372-2420  
阪急梅田駅茶屋町西出口北へすぐ

学生コンパ・忘年会・新年会には!



と いち  
ト ー

定休日・毎週月曜日  
営業時間・11:30~14:30  
16:30~22:30

京都市中京区富小路四条上ル  
TEL.075-223-0338  
FAX.075-255-2779

宴会五名様より百名様まで承ります  
コース2,415円より ご予算に応じて相談させていただきます

学校法人同志社のパートナー

**同志社エンタープライズ**  
損害保険・生命保険代理・マンション斡旋  
人材派遣・施設管理

京都市上京区烏丸通上立売上る  
柳園子町 339 番地  
TEL(075)251-3027 FAX(075)251-4044

**ウエディング** キリスト教精神を心にとめ結婚  
のときを迎えたいと希望される、同志社の卒業  
生にクラーク・チャペル、同志社礼拝堂を開放し  
ております。

**同志社エンタープライズ** 継志館事務所  
プール・フィットネス・ウエディング  
TEL(075)251-3290 FAX(075)251-3289

林間学校・自然学校・合宿・スキー・修学旅行・社員研修



ホテル  
**谷 常**



氷ノ山・後山・那岐山国定公園

〒667-1124  
兵庫県養父市丹戸八手高原

Tel:(079)667-8316  
Fax:(079)667-8318

<http://www.tanitsune.com>  
e-mail [tanitsun@tanitsune.com](mailto:tanitsun@tanitsune.com)

ピアノ楽譜の専門店

**CRESCENDO**

クレシェンド  
http://www.panamusica.com  
TEL 075-959-0070

楽譜は楽譜の専門店で

合唱楽譜の専門店

**PANAMUSICA**

パナムシカ  
http://www.panamusica.co.jp  
TEL 075-952-8762

「私達は、居酒屋のおいしさを追求し、  
居酒屋の楽しさを大切にし、  
元気を提供します。」

京都市中京区丸太町通西洞院北東角  
(府庁前交差点スグ)  
PM 5:00~AM 2:00 (L.O. AM 1:30)  
TEL : 075-255-4415

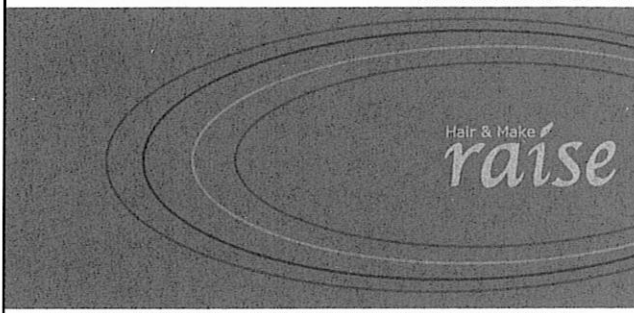
**⊕ 居酒屋 萬正**

同志社から3分! JR同志社前駅よこに申込所あります  
田辺キャンパス



京都府  
公安委員会  
指定  
**山城田辺自動車学校**  
TEL 0120-398046 http://www.8046.com

www.raise-lien.com



〒603-8165 京都市北区北大路通堀川西入南側ウィングベル紫野 1F  
TEL / 075-451-0777 MAIL / info@raise-lien.com  
[定休日] 月曜日  
[営業時間] 火~土 10:00 ~ 19:00 日 10:00 ~ 18:00 新規の方 ALLメニュー 20%off

### 第63回東西四大学合唱演奏会

日時 2014年 6月21日 (土)  
会場 京都コンサートホール 大ホール

- ・ 慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団
- ・ 関西学院グリークラブ
- ・ 早稲田大学グリークラブ
- ・ 同志社グリークラブ



### 同志社グリークラブ

第109期卒団生のための  
フェアウェルコンサート



日時 2014年 2月 15日 (土)  
場所 寒梅館ハーディホール  
京都市営地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩1分

## 同志社グリークラブ 依頼演奏募集中!

同志社グリークラブは随時依頼演奏を募集しています。  
結婚式・興添え・演奏会など様々なご要望にお応えいたします。  
ご連絡は <http://gleeclub.jp/> よりお願いいたします。

### 第109回同志社グリークラブ定期演奏会 パンフレット

2013年12月1日(日)  
京都コンサートホール 大ホール

平成25年12月1日発行

- JASRAC 出 1315120 - 301
- 制作・編集：同志社グリークラブ 荒木泰人